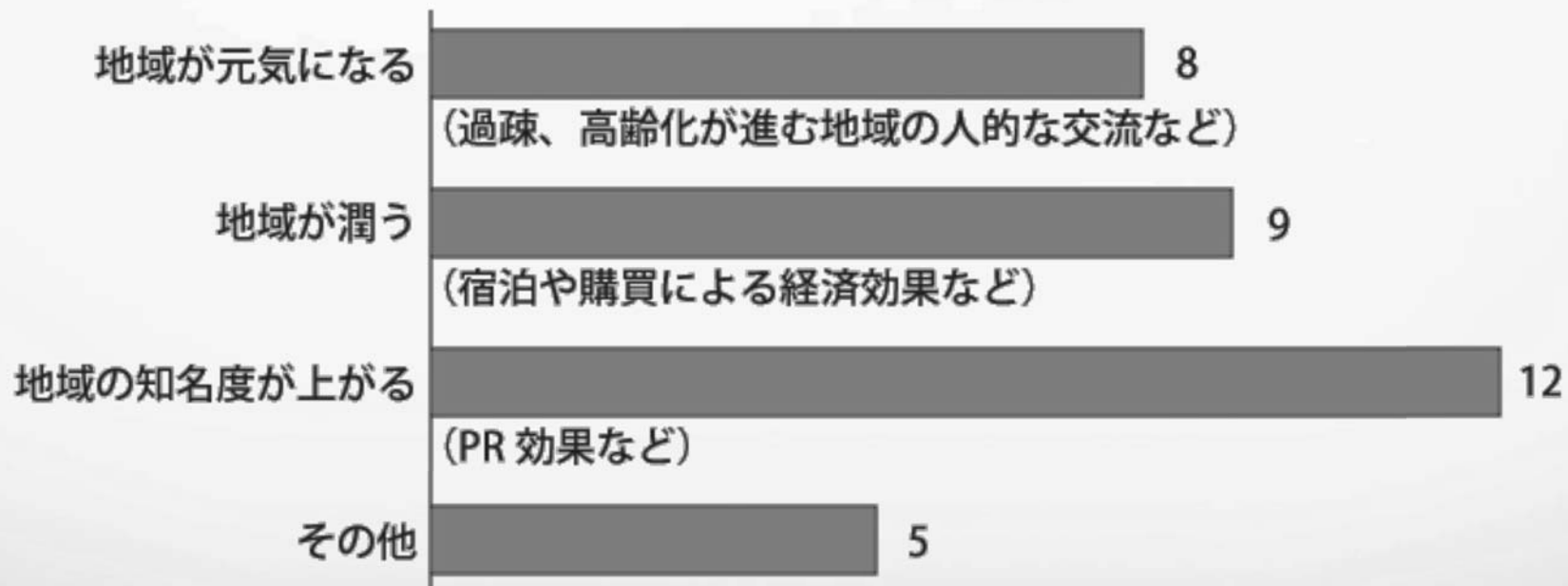


トレイルランニング大会に関する アンケート

トレイルランニングフォーラム2016
＜地域コミュニケーション委員会＞

大会を開催して得たメリットは何でしょうか？

※複数選択可



運営の主体となる組織はどのような形態ですか？

※複数選択可



大会運営に関わる地域の方の人数はどのくらいですか？



トレラン大会を始めた(誘致した) 主な理由は何ですか？

- オフシーズンの集客対策として(観光振興)
- 都市近郊にある魅力ある里山の自然環境があり、主催者が日常的にそれに親しんでいた。それをぜひ多くのランナーと共有したいと考えた。また、そのころすこしづつ本市でもトレラン人口が増えつつあったので、気軽に楽しめるイベントが必要だと考えた。
- 弊社スポーツ事業部の新企画として開催。 ●●県振興部スポーツ振興課に相談を持ちかけ実現に至る。
- ●●市職員提案事業『森林セラピー魅力創出事業』における、森林里山地域の活性化と●●市におけるニューツーリズムの創出を目的とした事業において、23年にプレ大会開催、24年に●●市政誕生100年記念事業として第一回大会を開催した。

- ・トレイルランニングの普及、普段運動をしない人が運動をするきっかけづくり・大会を通じて、いろいろな人との出会いの場の提供
- 地域活性化事業として
- 自身が様々なレースに出る中で、山のマナーやルールを知らない、リスク管理意識の低いトレイルランナーを生みだす過保護で商業主義的なレースに違和感を感じ、そのアンチテーゼとして一線を画すものを地元でやりたかった。（環境省からガイドラインが発表になったのも、大会主催者やメーカー、メディアが各地で好き放題にやった結果だと思う。）
- クラブ関係者からの発案により実施。
- ●●登山競争を20年続けて来てリニューアル拡張を繰り返してきた。
- ① 地域の活性化・情報発信 ② 国際交流

- 地元が盛り上がるようにアドベンチャーレース、オープンウォータースイム、ラフティングレース等のイベントを手掛けており、レースシリーズの一つとして2003年にトレイルランも始めた。
- 地域にある温泉スキー場やオートキャンプなどの一帯を地域内外にPRし、参加者と地域住民の交流を通して地域の活性化を図るため。
- 半島の新しい旅の形として、トレイルランニングやファストパッキング、スルーハイクなどのトレイルツーリズムの盛んな地域にするため。
- 大学演習林の利活用の促進(既存の林道、作業道、歩道の活用)
- 大学演習林の地域への普及
- 大学演習林の新たな利活用方法を模索している中で、学生からトレイルラン大会開催の提案があった。山岳スポーツが趣味の職員と学生が中心となり開催し、現在もそのスタイルで継続している。

- エントリー費の高騰や遠征費などの予算面でトレラン大会に出たくてもなかなか出られない人も多いと思い、関西で気軽に参加できるトレラン大会を開催したいと思いました。
- トレイルランニングを通じて自然への理解を深め、自然を敬う精神を養うとともに地域と関係者がふれあい、地域の魅力を広く発信して交流人口の増加と地域活性化に寄与すること及びトレイルランニングの健全な発展を目的として開催いたします。
- 当オリエンテーリング協会に山岳連盟から誘いがあったから。
- 国際NGO団体として、世界11カ国にて展開している「ファンドレイジング・イベント」という位置づけ。
- 夏や秋に「スキーと並ぶ観光の柱」をつくるため。更に、メインの冬シーズンに再度顧客を呼び戻すため。
- 山は修験の場でもある。山の神々からいただいた恵み、自然の恩恵、自然に対する畏怖を学び感じていただきたい。

トレラン大会を開催していて 一番大変なことは何ですか？

- 安全の管理(大会中の傷病、道迷い、天候など) 無事終わるまで心配が続く。
- 事故や怪我人を出さない様にする為に最大限の配慮をしている。
- 登山道をトレイルランニングの大会で使用するという許可や理解を得ること。関係者が誰なのかなど複雑だったり、まずはコースが使えないと大会が行えないので。
- 交通の便が悪い場所への交通手段の確保、案内 スタッフを集めること(特に誘導員)
- 開催当初は、トレイルランニングというスポーツに対して周辺の理解を得るのが本当に大変だった。周囲が懐疑的ななか、とにかく1回やってその盛り上がりを見てもらいはじめて理解を得られた。

- コースの設定に伴う関係省庁との協議、許認可 2.地域の方の理解、大会運営に関わる方の確保 3.大会収支バランスの均衡確保。
- 大会運営を山岳加盟団体のボランティアで行っているため運営要員の確保。
- 参加者が少ない大会であり、地域の方々が大会時にエイドなどで関わる場面がないため、地域の方に知って頂くのが難しい。連続7日間のステージレースのため、平日のボランティア集めが難しい。参加者50名程度の小規模大会なため、経済効果を期待されると難しい。林道などが崩落してきているのでコース作りや安全確保が難しい。
- 参加者のレベルの多様化。運営者の想像を上回る事態がよく起こる。
- 大会前の毎週末の準備作業。
- ルートの許可、コース整備、大会ボランティアの確保
- 資金繰り。大会独自の特色の出し方。

- 地域コンセンサスの醸成
- 環境評価...主催者側環境調査は行なっているがやはり本来は歩道管理者や環境省など第三者機関が評価をすべき。でないと、どうしても恣意的な物と捉えがち。
- 地域経済効果の最大化とトレイルのキャリングキャパシティのバランスの見極め。
- 初回は、未知の事柄が多く、また不慣れなこともあり、警察対応、地元市町村との調整などに手間取った。
- ① 予算の確保 ② トレイルの整備 ③ トレイルランニングの知名度の低さ ④ 大会PR方法
- スタッフが足りない。特に、実際にトレイルランニングをするスタッフがいないため、コースの下見も含めほとんど一人で準備をしている。
- コース整備、応募者数の増加による対応
- 駐車場の確保、交通手段など

いま直面している具体的な課題は何ですか？

- 安定的な成長できる組織づくり。
- ①大会数の増加に伴う参加申込の減少 ②自治体担当職員の移動に伴う、大会開催への理解とスキル
- 安全面やリスク回避で警察からもかなり厳しくアドバイスを受けており、それを実現させるためにも出費は否めない。そのため、大会運営にコストがかかり、前大会は赤字が嵩んだ。受益者負担ではまかなえないため、協賛社を募らないと実行できない。存続させるためには、自治体から何らかの人的供与や負担金が必要である。
- トレイルランニングについて国内の統一された定義や競技規則がないこと。大会毎に自然環境に配慮する姿勢が違うこと。

- 喫緊の課題は特にはないが、将来的に継続できる体制づくり(興味のある関係者がいなくなった時に継続できるか)に一抹の不安がある。
- 国立公園内をルートにしているので、環境省から昨年提示された指針以前より、環境省や県、市と連携して独自のルールを決めているが、環境団体から意見書が環境省などに提出されている。
- 会場として利用している公園の駐車場利用禁止の徹底
- 距離の長い大会で複数の自治体が絡むと、話がなかなかまとまらず難しいと感じています。また、大会を開催するような場所は宿泊施設や駐車場がない地域が多く、参加がしやすい環境をどのように整えるか、というところも検討中です。
- まだまだ地元の方との協力体制がそこまで構築できていないため、運営上の人的負担が課題であります。

- 将来的に継続して開催できる体制作り。
- より長いコースを望むニーズに安全面、許可の関係、ボランティアスタッフの確保がどこまでできるか。
- スタッフが足りない。今年はおそらく開催しない。
- 安全対策の充実と悪天候に対する準備
- 運営団体の維持(人員の確保)
- フェイスブックのみでの情報発信になっているので、大会のHPなどを作れたらなと思っています。
- トレイルランが多数開催されるため、魅力ある大会へいかに差別化できるか
- コース上のクマの問題。夜間は危険であり、長距離レースは2日間に分けざるを得ない。